

事業所名

クオール弘明寺教室

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

令和7 年

3 月

18 日

法人（事業所）理念	一人ひとりの心に寄り添う　～幸せな人生を送るために～								
支援方針	・クオールに関わる、すべての人の幸せを探索します。 ・児童から学び、成長していく事業所をつくります。 ・心の痛みに気づき、寄り添い、柔軟なアイデアで試行錯誤する職員集団をつくります。 ・地域社会の一員であることを常に意識し、社会参加を意識した支援を検討します。 ・継続的なサポートを実現するため、健全な事業運営に取り組みます。								
行動規範	・幸せのあり方は、一人ひとり違うことを認め、多様な考え方を受入れます。 ・神経多様性の視点から、違いを優劣ではなく個性と捉え、尊重します。 ・根拠のある支援を行うため、最新の知見を取り入れ、自己研鑽に励みます。 ・批判的思考をもち、提供するサービスの質を高めます。 ・肯定的、教育的、予防的な方法で支援します。 ・正しく記録された事実から支援を検討します。 ・安心して自分を表現できる身近な大人となれるよう、信頼関係の構築に努めます。 ・児童の細かな変化にも気を配り、職員間で共有し、必要な支援を検討します。 ・児童一人ひとりの将来の姿をイメージしたうえで、今、学ぶべきことを検討します。 ・社会参加の機会を設けて、成功体験ができるように支援します。 ・興味関心に合わせたプログラムを検討し、通所が楽しみになるように努めます。 ・ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康な状態で働きます。 ・職場の負担感には配慮しながらも、定期的に有給休暇をとり、リフレッシュします。 ・チームワークを意識し、職員間の良好な関係性づくりに努めます。								
営業時間		11 時	30 分	から	17 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり（基本は保護者送迎だが、状況に応じて相談のうえ実施）
家族支援	・児童の行動について困り感を抱える保護者に対しては、ペアレントトレーニングを実施し、応用行動分析と環境調整について学べるよう支援する。 ・公式LINEを活用し、クオールでの活動報告、日常生活の困りごとに対する相談支援を行っている。療育の様子は写真や動画等（他児童が映り込まないようチェックした後に送付）で共有することもある。また心理検査の結果等も、必要に応じてデータ等で共有することがある。 ・リアルタイムでのやりとりが必要な場合には、電話相談の対応も行っており、保護者の不安に寄り添い、傾聴、励まし、助言等を行うことがある。							移行支援	・児童を安心安全に送迎できるように、保育園、幼稚園と必要な連携を行っている。 ・併行通所先等での計画も、必要に応じて種類またはデータ等で共有することがある。この場合、保護者が調整役を担い、クオール専用の連絡袋または公式LINEを活用して共有する。 ・小学校への就学を見越した移行支援を行う。
地域支援・地域連携	・社会的な状況説明やルールについては、事前に視覚的に教示する他、ロールプレイ等で学べるように支援している。 ・公園や買い物、余暇施設など、地域に出向いていき、公共の場のマナーや活用方法について児童が学べるように支援している。							職員の質の向上	・年間研修計画にて、資質向上のための一定の研修（主にTEACCH、ABA、SST）を受講できるようにしている。 ・キャリアパスとして自己研鑽に対して一定の評価を与えるしくみがある。 ・外部の専門家（大学教員等）と連携し、実践報告をする機会をつくり、知識と実践が結びつくような働きかけをしている。
主な行事等	長期休暇の行事、外出先は、児童が自ら調べた外出先について、児童らが主体的に話し合って決める。 （例：ボウリング、カラオケ、映画鑑賞、はまぎん、スイーツパラダイス、Mulabo!、カップヌードルミュージアム、マクドナルド etc...）								

		対象児童：原則として年長以上（うち、初回アセスメントで集団への適応時期にあるとクオール弘明寺教室が認めた児童） 支 援 内 容				
本 人 支 援	<時間帯> プログラム内容 (例)	健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語 コミュニケーション	人間関係 社会性
	<クオール到着後> 身支度	事業所に到着してからの一連の流れ（提出物、荷物の片付け、検温、手洗い）をルーティン化し、自立的に行えるように支援する。	ロッカーのサイズ、ハンガー使用の有無、提出物置場の扱いやすさ等、児童の特性に合わせて環境を整える。	ロッカーから手洗い場までの動線を、分かりやすいように整備している。一連の流れは番号、文字、イラストを使った手順書で示す。	検温は支援員が行うが、児童から依頼ができるように支援する。	ロッカー付近が混雑した場合、順番待ち又は少し広い場所で荷物の確認ができるように支援する。
	<プログラムの合間> フリータイム	プログラムの合間にフリータイムがあることで、切替えの自然な動機付けになるような環境を整える。	活発に遊べるエリアを設けることで、室内でも、感覚入力を十分にできるような環境を整える。	行動問題が観察された場合、応用行動分析の枠組みで支援方法を検討している。 他者の表情、態度、状況に気づけるよう、適宜、必要な声かけを行い、楽しい遊びが継続できるように支援する。	自由な関わり遊びを観察する中で、児童ごとに学ばべきコミュニケーションスキルを検討している。 拡大・代替コミュニケーションが必要な児童に対しては、絵カード等を用いて意思疎通がとれるよう配慮する。	まずは大人との遊びから、段階的に児童同士の遊びに広がりをつくるように支援する。
	<15:35／17:15> 片付け	使った玩具を、元の場所に戻す時間を設け、片付けの習慣化を支援する。	玩具箱は大きめの箱を用いる等、片付けやすいような環境を整える。	完成形を写真で示す等、抽象的な概念も理解しやすいように支援する。	—	自分が使った玩具ではなくとも、片付けに協力してくれた児童には積極的な賞賛をすることで、協同する力を伸ばせるよう支援する。
	<16:10／16:40> おやつ	食事の前に手を洗う、順番を待つ、ゴミを捨てる、皿を片付ける行動を自立的にできるように支援する。	スナックの袋を開ける等、自立的に行えるよう支援する。	適切行動（姿勢良く待つ等）を取れている児童から先におやつを選ぶように設定し、適切行動が強化されるように支援する。	おやつはルールを定めたくうえで児童が自ら選べるように設定するが、大人とコミュニケーションをして選択できるように支援する。	同じ机で食事の時間を共有し、何気ない日常会話や興味関心を広げていけるように支援する。
	<15:40／17:20> はじめの会 かえりの会	—	—	自分が座る場所がどこであるのか、適度な距離感がどの程度なのかを、床材を色分けするかたちで視覚的に示している。	はじめの会で話す人は誰なのか、質問はどのタイミングで行うべきなのか等、暗黙のルールを明文化して教示している。	集団の中で求められる役割（集団を優先し、個の事情は後で行う）を教示し、会の進行はある程度ルーティンで覚えられるように配慮している。

